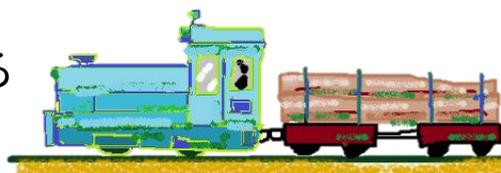


六ヶ所村の森林鉄道

昭和 10 年から昭和 39 年(1935 年~1964 年) おぶちりんどう おいっぺがわ 尾駈林道:老部川沿い

明治以降、六ヶ所村山岳部はヒバ林が広がる
国有地で、「よこはまえいりんしょ 横浜営林署 おぶちやまざいもくじぎょうしょ 尾駈山材木事業所」
が管理していました。



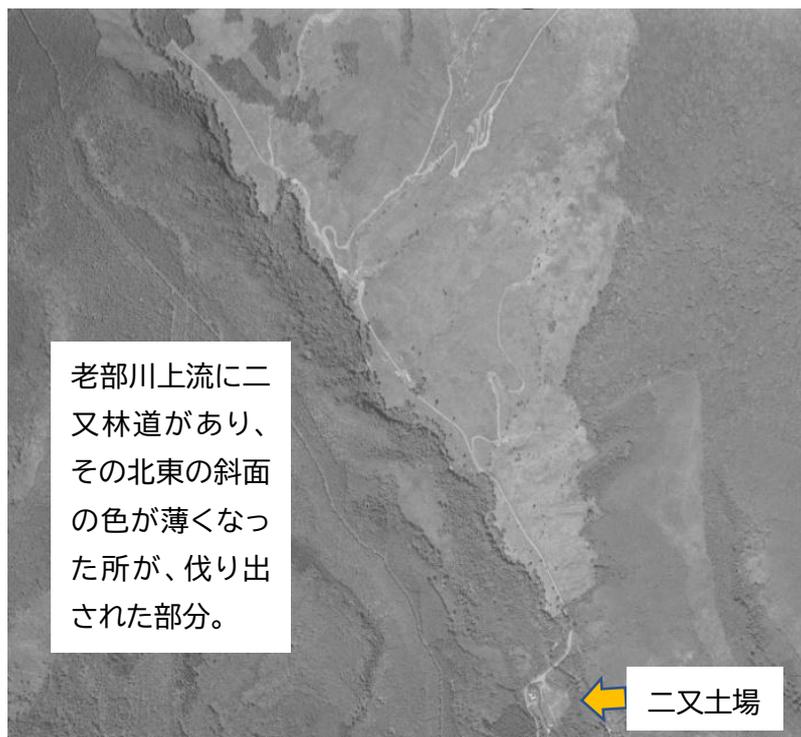
おいっぺがわちゅうりゅう 老部川中流の林道に貯木場のふたまた ど ぼ 二又土場
があり、ないねんきかんしゃ 内燃機関車がトロッコに積んだヒ
バ材を運んでいました。昭和 26 年には森
林鉄道 1 級に格上げされ、内燃機関車が、
昭和 39 年まで使用されていました。その
後、トラック輸送となり、現在は、おぶちりんどう 尾駈林道
になっています。

尾駈林道の歴史

尾駈林道で、最長約 9 km の森林鉄道がありました。二又土場には、二又事務所と貯木場があり、機関車の車庫や 20 台ほどのトロッコが置かれていました。

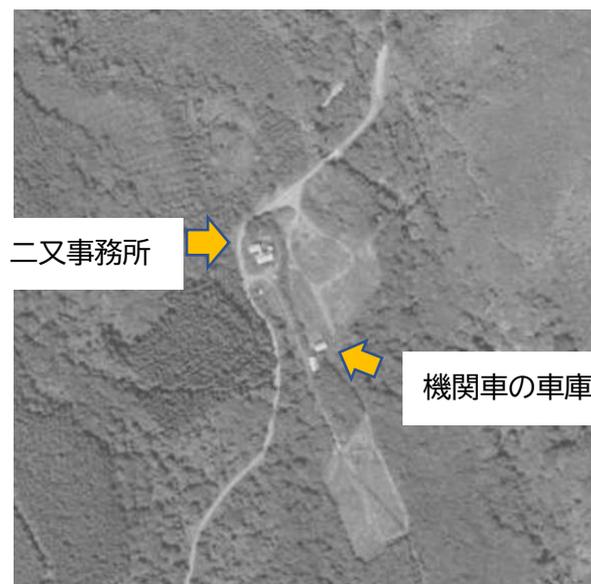
- ・昭和 10 年度開設
- ・昭和 26 年度二又土場から森林鉄道 1 級で開設
- ・昭和 29 年度 930m 延長開設
- ・昭和 39 年度全線を廃止。トラック輸送へ

※「近代化遺産 国有林森林鉄道全データ 東北編」



老部川上流に二又林道があり、その北東の斜面の色が薄くなった所が、伐り出された部分。

二又土場



二又土場の航空写真 1968 年(S43)

二又事務所や内燃機関車の車庫、軌道跡を見ることができる

※航空写真 2 点は、国土地理院HPから引用

老部川中流沿いのヒバ伐り出し状況の航空写真 1968 年(S43)



やま ごりようきょくさんかくてん
 ぼんてん山山頂の御料局三角点の標石
 ※写真提供者：山口 進氏



おぶちやまざいもくじぎょうしょ
 横浜営林署 尾駈山材木事業所



昭和 20 年代の線路の敷設工事の様子



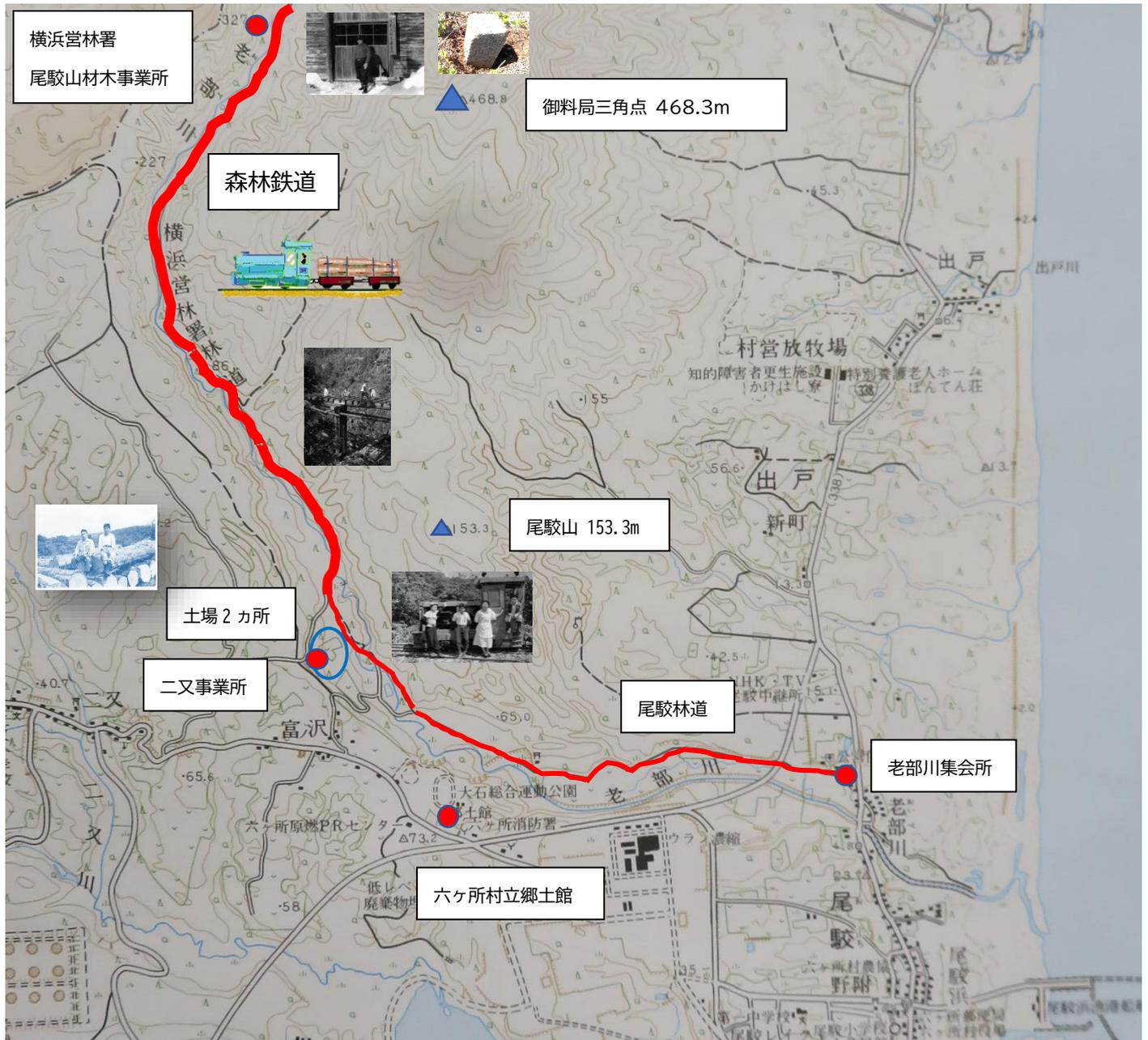
内燃機関車の前で記念撮影



ふたまたとば
 二又土場で一休み

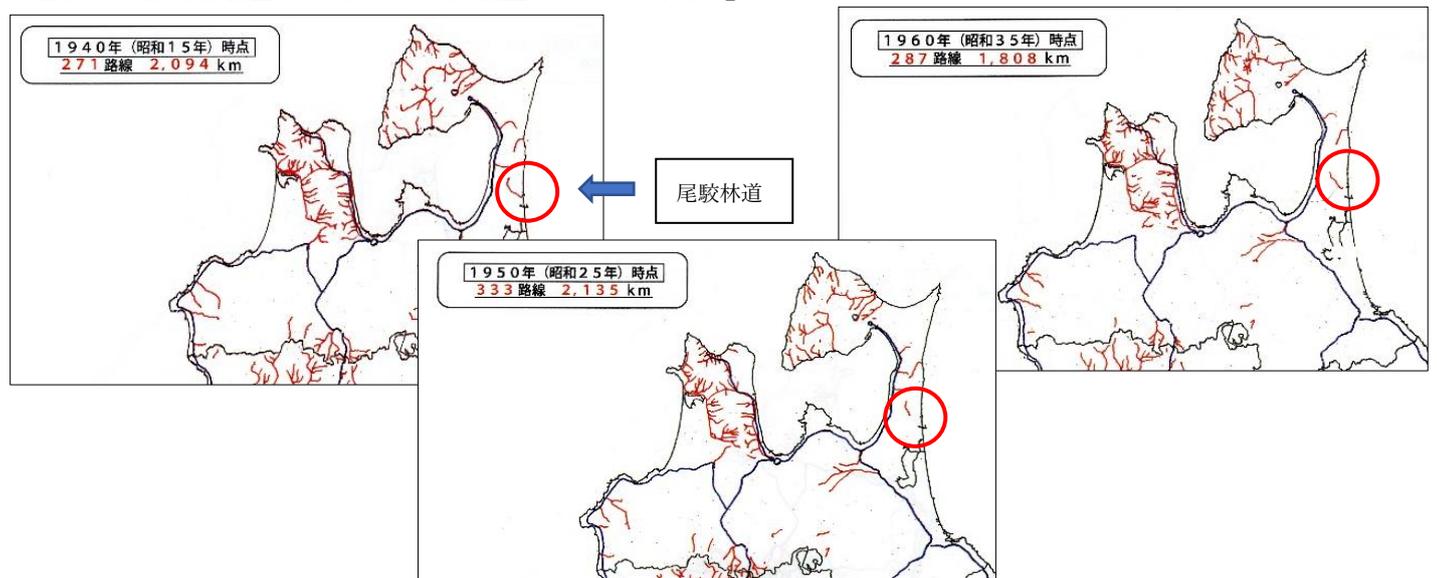
※写真提供者：秋戸慶典氏と秋戸淳一氏

ぼんてん山山頂の御料局三角点と森林鉄道



1940年・1950年・1960年の森林鉄道線路図

※出典：「近代化遺産 国有林森林鉄道全データ 東北編」



森林鉄道のありし姿



秋戸慶典氏から、森林鉄道についてお話を聞きました。

(2020年2月9日と16日)

- (1) 昭和 24 年から昭和 35 年まで、ヒバ材の積み出しの仕事をしていた。
保全係で、時々機関車の運転助手を行う。給料は、150 円/月。冬場は、炭焼きで、1 回 250 円だった。弁当や缶詰を持って行って食べた。山に入るときは、山の神様に鳥居(ヒバ製で自作)を立てて、祈ってから入った。
- (2) はじめトヨタのガソリン車を 2 年間使うが、軽くて止まらない。砂を積んでブレーキとするが、砂が屋根の上で、二人で撒く作業が大変だった。のちに、いすゞのディーゼルエンジンに換え、砂が下部になったので、楽になった。
- (4) レールは、6 k g / 1 m は一人で持ち、9 k g / 1 m は二人で持った。長さは 6m ~ 7 m あった。
- (5) 夏は、1 日に 3 回ヒバ材を運んだ。7 ~ 8 台のトロッコで運んだ。林道の平らな所は、トロッコを押して運んだ。冬は伐採した材をソリで運んだ。
- (6) 3 尺にヒバ材を切って、二又土場から現在の老部川集会所の土場にも流した。
- (7) 12 月 12 日は、山の神様の日で、林道の中ほどの土場にあるヒバ材で作った鳥居のところで祈祷した。その日は休みで、みんなで飲み会を行っていた。
- (8) 林道中間地点に、トタンを張った小屋には、ダイナマイトを置いていた。岩を取り除くために使用。(その後、この小屋は、除草剤置き場として使われたようだ。)
- (9) 集材機があり、ワイヤーでつるしてヒバ材を運んだ。
- (10) 冬には中間地点の土場に、杭を打って飯場小屋を建てた。5 ~ 6 間の 10 人くらいが利用できる小屋だ。
- (11) 沢の水を飲んだ。二又地区から 30 ~ 40 分で歩いて仕事に来ていた。
- (12) 林道沿いに、電話線を引いていた。(林道沿いに「ガイシ 1947 年」が、落ちていた。)
- (13) 集合写真は、左から副機関士、秋戸慶典さんご本人、飯炊きのおばさん、運転手。



尾駁の方々が見学に来て記念撮影 (昭和 30 年頃)

二又土場の航空写真
1968 年 (S43)
※国土地理院HPから引用

